

Z06 030 T64

長野県教育研究会講演

科学時代の教育

京都大学教授 湯川 秀樹 先生



第十二次長野県教育研究会は、長野県教職員組合、信濃教育会の共催により、昭和三十九年十一月十四日(土)、十五日(日)の二日間、諏訪市において盛大に開催されました。

記念講演には、京都大学教授、基礎物理学研究所長の湯川秀樹先生をお願いし、現代において特に考えねばならぬ「科学時代の教育」と題して、きわめて感銘の深い御講演をいただきました。先生には、公私ともにきわめて御多忙にもかかわらず、私の御依頼を快諾していただき、予定の講演時間をのばすほど御熱心に講演していただき、参加者一同感激致したところであります。

先生の御要望もありませんので特に講演内容を要約することなく、そのまま集録しました。話しことばそのままなので、くりかえしのところなどありますが御判読下さい。

県下組合員、会員に一部つづつおとどけますので、参考にしていただきたいと思います。

長野県教職員組合
信濃教育会
企画委員会

この長野県は昔から非常に教育に熱心であるといふことを私もかねがねよく承知しております。何年か前にも信濃教育会の会合に出席させていただいたことがございまして、私が知っておる物理学者の中にも長野県出身の非常に優秀な人があります。一例を挙げますと、私が一諸に仕事をしております片山保久君という非常に優秀な人がおりますが、この人は上田の出身の人であります。

私は今まで余りよく知らなかつたんでありますが、こんど何回目か二度目三度目でありまして、三度目位だと思っておりますが、こちらへ参りまして、長野県というのは非常に大きな県であります。又、其中です。おね地域によつて気候風土もちがひ、又そこから出てくる人物にもいろいろ特色があるんだというところが少しわかつて来ましたが、然し、まあその信州の方といひますと、私も持っておりますが、みなさんも認めておられる

と思ひますが、大変理くつぽいと信州の方は大通りたくつぽいと私その通りだと皆さんも否定なさらないと思ひます。それと同時に又非常に骨がある、これはお互いに関連のあることであるが、そういうまあ特色をすつと保持して来られたという事は、気候風土の関係もあり、それは同時にその教育活動が非常に長年わたつて非常に盛んだつたこと、これみんなお互いに関係のあることだと思ひますが、何が原因か、何の結果であるかは簡単にいえないと思ひます。が、そう云うわけで私は今回お招きによりまして、ここでみなさんにお話できるのを大変しあわせだと思つております。

然し果してみな様の御参考になる話が出るかどうかという事にはなりません。私のもつておりません。私は大変しあわせな人間でありまして、大学におりました、自分が研究をするという事とはこれは表裏一体だと思ひます。つまり、まあそれで大学というところはそれでいいん

c021-120-020

ただ、こういうふうな問題にしてもまだ考え足りないところがあるんですから、私は皆さんに、私の考えを押しつけようとする気持ちは毛頭ないんです。皆さんそれぞれ違つた小学校を出、教えておられる方は中学校で教えておられる方もあると思ふんですが、また、生徒諸君もおられるようでもあります。それぞれ私の云うことをう呑みにする必要は全然ない、うそをいつていることがあるかもしれないし、間違つていることがあるかもしれません。

私が近頃、いつしうけんめい考えて、こうでもあろうかあでもあろうかと思つていることをそのままお話ししたんでありまして、皆さんがそれを信ずる信ぜぬにかかわらず、なにか、それを御参考にして頂けたら、私がかこにしゃべりましたことは無駄ではなかつたと思ふんです。だいが長いことお話ししてしまいました。

(拍手)
(責任者 名取道治)